

## 矯正施設退所者への地域生活支援のあり方に関する研究

### －更生保護関係機関への調査・事例検討の結果から－

○ 社会福祉法人芳香会 社会福祉研究所 酒寄 学 (5237)

宇留野 功一 (社会福祉法人芳香会 社会福祉研究所・1959)

徳竹 健太郎 (社会福祉法人芳香会 社会福祉研究所・6454)

キーワード3つ：矯正施設退所者・更生保護関係機関・地域生活支援

### 1. 研究目的

近年、矯正施設退所者の地域生活支援のための仕組みづくりが喫緊の課題となっている。この矯正施設退所者への地域生活支援には、民間協力者と退所者とのつながりをもつ仕組みを強化し、地域生活を営むうえで地域に根付いた取り組みが有効であると考えられる。

本研究では、複数の更生保護関係機関（保護司会、更生保護女性会、地域生活定着支援センター）を対象にグループへのインタビュー調査並びに事例検討を実施し、矯正施設退所者の地域生活支援に必要な要素を検討する。

### 2. 研究の視点および方法

本研究では、更生保護関係機関へのグループインタビュー調査、並びに事例検討を実施した。

#### ①グループインタビュー調査

更生保護事業にかかわる活動の実態と特徴の把握、矯正施設退所者の地域生活に求められる要素を明らかにすることを目的とし、A地区更生保護女性会並びにB地区保護司会の会員を対象に実施した。調査はフォーカスグループインタビュー法に基づきグループインタビューを実施した。調査対象者は各団体の会長並びに幹部に依頼した。

矯正施設退所者の地域生活支援に求められる条件の検討にはコミュニティ・エンパワメントの理論を用い、抽出データを個の領域、相互の領域、地域システムの領域の3領域に分類し、セルフ・エンパワメント、ピア・エンパワメント、コミュニティ・エンパワメントについて検討した。

#### ②事例検討

C県地域生活定着支援センターでの対応事例をもとに、矯正施設退所者の地域生活支援に求められる機能と役割を検討することを目的とし、支援実績の中から抽出された事例Dのケース記録をもとに、ソーシャルワークの援助過程に沿って地域生活定着支援センターが展開した活動を整理し、その過程で発揮された機能を検討した。

### 3. 倫理的配慮

本研究の調査協力者への倫理的配慮として、本研究で収集した調査結果は、更生保護活動の今後の展開について検討を行うための基礎資料とし、目的以外では使用しないことと

した。また、氏名、住所等個人を特定する情報は扱わず、調査で知り得た情報は口外しないことを徹底し、情報の秘密保持を厳格に行うこととした。調査協力者へは、調査協力依頼時および調査実施前に口頭あるいは紙面で、収集した情報の使用目的、情報の秘密保持などの倫理的配慮について説明を行った。また、同意を得た後でも調査への協力をいつでも撤回できることを説明した。

#### 4. 研究結果

##### ①グループインタビュー調査

A地区更生保護女性会並びにB地区保護司会の会員を対象に実施したグループインタビューの結果を複合分析した結果、以下の通り重要アイテムが抽出された。

領域	重要カテゴリー	重要アイテム
個の領域	活動への主体的な取り組み	活動への意欲、自己効力感 達成可能な課題設定
相互の領域	活動拡大への意欲と課題	人材の確保、資金の確保 活動展開への課題
地域システム の領域	情報支援の充実	活動の認知
	地域とのかかわり	地域からの関心、学校との連携 他機関との連携

##### ②事例検討

事例Dから抽出されたソーシャルワーカーの機能と役割を援助過程別に検討をした結果、以下のように整理された。

援助過程	ソーシャルワーカーの機能と役割
矯正施設退所時	仲介機能・代弁機能
施設並びに市役所との調整	連携機能・保護機能
福祉施設検討時	連携機能・代弁機能

#### 5. 考察

A地区更生保護女性会並びにB地区保護司会の会員を対象に実施したグループインタビューの結果を複合分析した結果から、抽出された10項目は、矯正施設退所者への地域生活支援を展開するうえで特に重要な項目であると考えられる。

また、C県地域生活定着支援センターでの対応事例をもとに行った事例検討からは、矯正施設退所者を支援するソーシャルワーカーとして十分に機能するためには、支援等の過程や局面に即した各機能や役割の発揮の仕方、またそれが明確になるようなアセスメントのあり方について検討する必要があることが示された。